

# コミュニティ・スクールだより



第33号

名張市教育委員会事務局発行  
令和4(2022)年3月9日

## 『コミュニティ・スクール 実践集2021』発行

本年度のコミュニティ・スクールの特色ある活動や実践を集めた『コミュニティ・スクール実践集2021』を作成しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、三重県や名張市にまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されるなど、長引くコロナ禍においても、互いに知恵を出し合い、工夫をしながら実施した各学校の様々な事例をはじめ、来年度以降の推進のためのヒント、また、「コミュニティ・スクール」の連携・協働した取組を子どもを核とした地域づくりである「スクール・コミュニティ」に発展させていくためのアイデア等が満載です。

『コミュニティ・スクール実践集2021』は、名張市公式HP <https://www.city.nabari.lg.jp/> で公開しています。是非ご覧ください。

※名張市公式HP内の掲載場所は下記のページです。  
<https://www.city.nabari.lg.jp/s057/010/040/080/20201126154148.html>



コロナ禍においても、子どもの学びや成長のため、「今だからこそ、気付けることがある」、「今だからこそ、できる教育活動がある」、「今だからこそ、鍛えられる力がある」と信じて、学校と家庭、地域が互いに連携・協働するコミュニティ・スクールの推進を図ることが重要と考えます。

今後も各々が当事者意識を持ち、熟議の中で互いに知恵(アイデア)を出し合い、地域づくり組織等と連携・協働しながら子どもの豊かな学びと健やかな成長を支え、学校が地域コミュニティの絆や生きがいづくりの核となるため、よりよい方策を生み出していきたいと思います。

★未来の創り手を育てよう！ ★子どもはみんなで育てよう！

★学校(社会)はみんなでつくろう！



## コロナ禍での学校運営協議会の開催に苦慮 時間短縮、WEB開催、役員開催、書面開催等で工夫

新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大する中、三重県がまん延防止等重点措置期間のため、各学校では、本年度最後の学校運営協議会の開催に苦慮していました。本来ならば、本年度の学校運営の評価や活動の総括、次年度に向けての方向性等を話し合う重要な機会と考えていたはずですが、オミクロン株の感染拡大状況が収束しない中で、開催を見合わせざるを得ない学校が増えてきました。

次年度における学校運営及びコミュニティ・スクールの取組等のスタートがスムーズに進められるよう、引継ぎや方向性の確認を確実にお願いします。

そのような中で、大きな教室で換気を十分に行いながら感染防止対策を講じた中での開催や、時間を短縮しての開催、参加者を制限しての役員開催や部会長での代替開催、書面での開催等、実情に応じて開催されています。一例ですが、名張中学校では、WEB会議が開催され、約半数の委員がZOOMで参加しました。初めての試みではありましたが、「会議はしておくべき」との声を大切にした結果であり、スライドや動画による提案等、教職員も役割分担をして会議運営に参加する協力体制が見られました。



【名張中学校】  
ZOOMによる  
WEB会議

## 子どもたちに、今、必要なものは？！

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、改めて学校・家庭・地域の役割分担や連携・協働することの重要性が浮き彫りとなってきています。

保護者や地域住民の皆さんが「当事者」として学校運営に参画し、めざすべき目標を共有し、その目標達成のための十分な熟議・協議をしたうえで、学校と家庭・地域が連携・協働して対処することができる体制を制度的に保障していることに、コミュニティ・スクールの意義があります。

コミュニティ・スクールは、学校・保護者・地域住民で「共に創っていくもの」=「共創」ではないかと考えます。これからの社会を形成する子どもたちが、自らの人生を切り拓いていくためにも、教育課程の改善・充実や特色のある学校づくりなど学校運営には、各々が主体性を持って対話に基づく相互尊重が求められます。

継続してこそ、信頼関係が築かれ、継続してこそ、成果が表れてきます。更には、立場を越えたつながりが生まれてくるはずですが。

このようなことから、もう一度原点に戻り、「子どもたちに、今、必要なものは？！」、「子どもたちに、今、必要な力は？！」、「それぞれが何をすべきか？」…と互いに議論してみたいかがでしょうか。

主体性

信頼

共創

継続

つながり